財政特集

向日市のバランスシートを作りました

平成11年度の向日市の財政状況がまとまりました。

本市の財政状況はもともと脆弱な財政基盤に加えて、バブル崩壊後の長引く景気低迷の影響を受け、誠に厳しい状況に直面しています。

この本市財政を健全化への軌道に回復させるため、現在、行財政改善の推進に取り組み、財政の健全化を図りながら、市民の健康と福祉施策の充実など、笑顔が輝く健康都市の実現を目指しています。

向日市の財政状況を理解していただき、行財政の改善の推進に一層のご協力をお願いします。

より詳しい内容は、「平成12年度向日市の財政状況」の冊子として取りまとめていますので、情報公開コーナーでご覧ください。

（人口53,139人/平成12年3月31日）

	向日市一般会計	市民一人当たり
資産合計(A)	435億6,864万1千円	82万円
有形固定資産	400億6,485万1千円	75万4千円
投資等	14億9,555万8千円	2万8千円
流動資産	20億823万2千円	3万8千円
負債合計(B)	170億8,969万4千円	32万2千円
固定負債	157億8,812万円	29万7千円
流動負債	13億157万4千円	2万4千円
正味資産合計(C=A-B)	264億7,894万7千円	49万8千円

向日市では、企業会計的手法による資産と負債の状況を表したバランスシート(貸借対照表)を自治省の統一基準に沿って作成しました。

地方公共団体においても、財産情報への関心の高まりや税金の徹底した効率的な活用が求められており、とりわけ経営資源の状況とそれを調達するための財源の状況を示す新たな財政指標として、バランスシートを今回試行的に作成したものです。

資産の合計は435億6,864万1千円。有形固定資産の合計は、平成12年3月31日現在(以下同年月日)で、土地が211億3,956万8千円、施設が189億2,528万3千円、合わせて、400億6,485万1千円となり、投資等は、財団法人等への出資金など14億9,555万8千円、流動資産は、積立金である財政調整基金など20億823万2千円となりました。

一方、負債の合計は170億8,969万4千円。固定負債では1年を超えて支出が予定される地方債などを固定負債として、流動負債は1年以内に支出が予定される地方債元金償還額等を流動負債として計上しています。

正味資産は、今までの向日市の資産形成の純額を表すもので、264億7,894万7千円となりました。

また、バランスシートを人口で割った市民一人当たりの額では、平成11年度末の市民一人当たりの資産の額は、82万円、負債の額は、32万2千円、正味資産は、49万8千円となりました。

バランスシートで見る公共施設の管理運営費

バランスシートの作成により、下の表が示すように、施設の減価償却費や建設のために発行した市債の利子などをコストとして積算することで、正確なトータルコストを把握することができます。

■市民温水プール運営コスト（平成11年度決算額）

経費		収入	
人件費	21,168	使用料	64,410
管理費	98,173	事業収入	7,968
交流活動費	24,088	手数料	580
減価償却費	48,085	計(b)	72,958
公債費利子	133,407	差引市支出額(a)-(b)	251,963
		内交流活動事業補助	15,909
計(a)	324,921	他支出額	236,054

(単位:千円)

開館日数　289日　延べ利用者数　138,111人
開館1日平均市支出額　872千円
1人当たり利用者への支出額　1,709円/回

■保育所運営コスト（平成11年度決算額）

経費		収入	
人件費	716,590	国庫支出金	113,108
管理費	185,626	府支出金	77,399
普通建設事業費	2,384	保護者負担金	128,619
減価償却費	13,290	職員給食材料費	2,332
公債費利子	0	計(b)	321,458
計(a)	917,890	差引市支出額(a)-(b)	596,432

(単位:千円)

延べ入所児童数　7,485人
入所児童1人当たり市支出額　79,684円/月
入所児童1人当たり保護者負担金　17,184円/月

バランスシートってなに?

● 単式簿記制度と複式簿記制度

バランスシートは、企業の財政状況を明らかにするため、一定の時点において当該企業が保有するすべての資産、負債等の状況を総括的に表示した報告書です。

官公庁会計では、現在「単式簿記制度」を採用しています。民間企業では、「複式簿記制度」を採用しています。

「単式簿記制度」は、「収入」と「支出」の面からのみ財務管理するもので、「複式簿記制度」は、「収入」と「支出」だけでなく、「資産」と「負債」と「資本」、「現金収入」と「現金支出」などの様々な面から、財務管理するものです。また、単式会計は、「借金」の存在が把握しにくいといわれています。「歳入」と「歳出」の内訳には、「借金による収入」「借金返済のための支出」が盛り込まれています。その結果、収支が均衡していれば問題がないように見えてしまいます。

しかし、複式簿記では、「貸借対照表（バランスシート）」などの財務諸表により、どこから運転資金を調達したのか、借金の残高はいくらあるのか、一目でわかるようになっています。そうすることで、財務の健全化を絶えず図っているといえます。

■人件費■

義務的経費のうち、人件費についてみると、向日市は、市民一人当たりの額は府下11市で中位にありますが、歳出に占める比率では、投資的経費の減少など歳出の構成比の影響もあり、最も高くなっています。

人件費の増加要因は、市制施行以後多様化する行政需要への対応として採用した職員の高齢化に加えて、施設の管理運営に伴う人件費などが増えてきたことによります。

人件費についても、平成7年度から事務職の退職等による欠員の不補充をはじめ組織機構の見直しや職員定数の削減に努めており、平成11年度においても総額の抑制を図ったところです。

■人件費の額と歳出に占める割合の推移■

■公債費■

公債費は、地方自治体が借り入れた市債の元利償還金と一時借入金利子です。

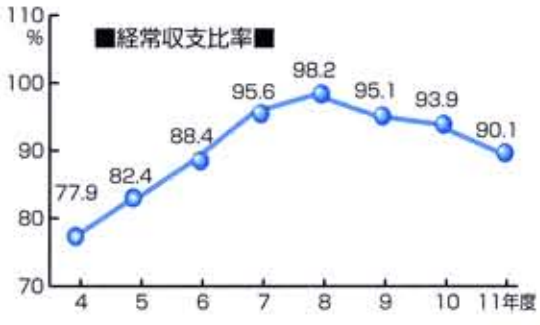
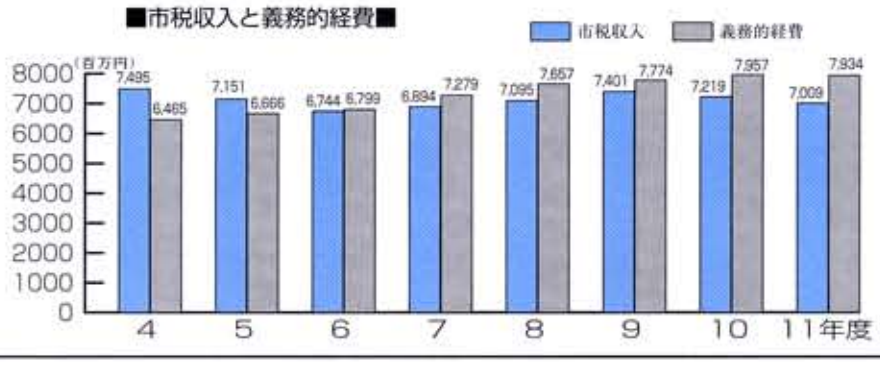
本市では、市民温水プール、福祉会館の建設等に伴う多額の市債の発行により、公債費が増大している状況にあります。公債費は任意に削減できない義務的経費であり、その財政負担の状況を示す指標として、市債の元利償還金が市税等の一般財源に占める割合を示す公債費比率や起債制限比率があり、この比率が高いほど財政構造が弾力性を欠くことになります。

向日市は、市民一人当たりの公債費の額は、府下11市の中で平均より少し下にありますが、公債費比率は5番目に高い状況にあります。平成9年度から、公債費対策を講じてきており、各年、若干前年度を下回りましたが、まだまだ高い状況にあります。

■経常収支比率■

経常収支比率とは、人件費、扶助費、公債費等の義務的な性格の強い経常経費に、市税や地方交付税などの経常的に収入される一般財源がどの程度充当されているかを示すもので、財政構造の弾力性を示す指標として用いられているものです。

平成11年度と平成4年度の市税収入と義務的経費を比較すると明らかなように、過去においては、市税収入で義務的経費総額をまかなうことができてきましたが、平成6年度を境に、逆に義務的経費が市税収入を大きく上回る状況が続き、財政構造の硬直化が進行していることを示しています。



■市税収入と義務的経費■